

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	慢性病看護学特講 Advanced Care of the long-term patient			担当 教員	池田 清子(専任)	
開講年次	1年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目 実践看護学	授業形態	講義・ゼミ	
選択必修	選択	時間数	30時間			使用教室		
授業の目的及びねらい		慢性病あるいは慢性性を病者の側から捉える視座を確認し、慢性病による個人・家族への影響ならびに反応・対処を理解する上で有用な諸理論、病者や家族の能力が十分に生かされる看護援助開発について検討する。						
授業のキーワード		慢性病、セルフケア、説明モデル、病みの軌跡、病者役割、スティグマ、ボディ・イメージ 無力感、アドボカシー、対処、QOL						
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画							
1. 2	慢性病、慢性状況とは：慢性病の諸特徴、病者・家族の課題・問題 文献 ストラウスら：慢性疾患を生きる 序章～第7章							
3. 4	慢性病、慢性状況とは：慢性病の諸特徴、病者・家族の課題・問題 文献 ストラウスら：慢性疾患を生きる 第8章～第14章							
5. 6	慢性病：医学モデルと病者の説明モデル その違いと理解 文献 クラインマン：病の語り 第1章～第5章 第7章							
7. 8	病みの軌跡モデル：病みの軌跡の局面、管理と影響条件 文献 ウグ編：慢性疾患の病みの軌跡 第1章 +各自選択							
9. 10	慢性病者の理解－病者役割、スティグマ 文献 Lubkin & Larson:Chronic Illness Impact and Interventions chapter2.3							
11. 12	慢性病者の理解－ボディ・イメージ、無力感 文献 Lubkin & Larson:Chronic Illness Impact and Interventions chapter10.12							
13. 14	医療者の影響－倫理とアドボカシー 文献 Lubkin & Larson:Chronic Illness Impact and Interventions chapter15.17							
15	まとめ							
テキスト及び参考文献		ストラウスら：慢性疾患を生きる クラインマン：病の語り ウグ編：慢性疾患の病みの軌跡 Lubkin & Larson:Chronic Illness Impact and Interventions						
成績評価の方法		授業中に提示する課題への取り組み、・プレゼンテーション、・討議への参加態度（80%）、最終レポート（20%）による総合評価とします。						
教員から学生へのメッセージ		各自、文献を読み、プレゼンテーションの準備をして臨むこと、またプレゼンターは、討議ポイントを明確にしておくこと。 文献の内容理解とともに、実践での経験を関連づけて解釈することを期待します。該当するとと思われるケースを説明できるように準備しておくこと。						